

道路空間再編におけるデザインの考え方と効果計測の手法を提案

(研究期間：平成 26 年度～平成 29 年)



社会資本マネジメント研究センター 緑化生態研究室
 研究官 (博士(工学)) 西村 亮彦 室長 舟久保 敏

(キーワード) 道路空間再編、道路空間再構築、道路デザイン、道路空間の利活用、効果計測

1. はじめに

近年、少子高齢・人口減少社会の本格的な到来をはじめ、わが国の都市をとりまく社会情勢が大きく変化中、市街地の道路空間について、空間再配分や施設更新、多目的利用を通じて、公共空間としての多様な機能をバランス良く発揮させることが求められている。そこで、2014年度より国内外における道路空間再編の取り組み事例を調査し、現場で培われてきたノウハウ・アイデアの蓄積・共有に取り組んでいる。

2. デザイン図集の作成

2017年度は、国内外における道路空間再編事例の中から、機能・空間形態に基づく13のデザインパターンを抽出し(図-1)、各デザインパターンの採用にあたり考慮すべき諸条件、期待される効果、計画・設計上の技術的な留意事項の検討を行った。

調査の成果は、行政や民間における道路設計の実務者が、市街地における人間本位の道路空間デザインを検討する上で参照可能な図集形式の技術資料としてとりまとめた。(図-2)

3. 効果計測の手引き作成

道路空間再編においては、道路空間の機能拡充・質的向上が地域へ与える効果を、従来の3便益だけでなく、社会、経済、環境等、様々な角度から捉え、関係者に対するアカウンタビリティの確保、及び事業のさらなる改善に役立てることが重要である。

そこで、道路空間再編のシナリオ別に中間アウトカムと最終アウトカムの因果関係を整理したロジックモデルを構築するとともに、各アウトカムについて、指標の説明力とデータ入手の難易度を考慮した評価指標とその計測手法のパッケージを検討し、手引き形式の技術資料の素案をとりまとめた。(図-3)



図-1 道路空間再編における13のデザインパターン

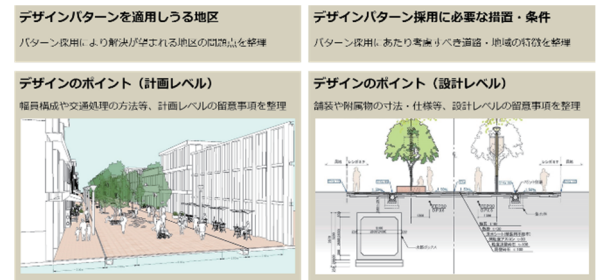


図-2 デザイン図集の構成イメージ

経緯	事業効果の分野	事業効果の指標	主な計測方法
中間アウトカム	UPUI	滞在人数	カウント調査、IoTの活用
	滞在時間	滞在時間	行動記録調査、マッピング調査、IoTの活用
最終アウトカム	道路空間の質的向上	地元の人々の空間利用頻度	聞き取り調査、アンケート調査
	路上の滞留度の印象	路上の滞留度の印象	聞き取り調査、アンケート調査
社会全体	年間犯罪件数	年間犯罪件数	統計調査
	人口の増減	人口の増減	統計調査
最終アウトカム	歩行者の満足度	歩行者の満足度	アンケート調査、聞き取り調査
	自転車利用者の満足度	自転車利用者の満足度	アンケート調査、聞き取り調査
最終アウトカム	道路の維持管理費用	道路の維持管理費用	統計調査、聞き取り調査

図-3 シナリオ別の指標と計測手法のパッケージ

詳細情報はこちら

1) 国総研資料 No.1026

<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/sirvou/tnn/tnn1026.htm>

4. 暮らしやすさの向上